

学び、遊んだ全国交流集会in香川

楽しかったよ〜!

6月3日～4日香川にて女性部全国交流集会が開催され、10都県から37名が参加しました。一日目は、国立ハンセン病療養施設大島青松園の見学、「ことひら温泉琴参閣」で夕食交流会を行いました。二日目は金毘羅宮の散策、うどん打ち体験など楽しみました。

大島青松園の企画・見学は「ハンセン病問題を考える市民の会」の酒井光雄さん（香川）にお世話になりました。当日は3人の方がガイドしてくださいました。



★台風がこんなに居座るか、前日から交通情報をどれだけPC穴があくほど見てたことでしょうか。福島と委員長は残念ながら参加出来ませんでしたが、船に乗り大島青松園ハンセン病学習が出来、女性部初全国学習交流会は大成功だったと思います。（兵庫・小島）

ハンセン病問題を正しく知って後世へ伝えることが私たちの役目



写真上／高松港で世話人酒井さんの説明を受ける
青松園住民の野村さんよりお話を聞く
下／大島は「瀬戸芸術祭」の会場ともなっている

写真上／海中から引きあげられた「解剖台」
下／モニュメント「風の舞」



★学習内容を見てすぐ参加を希望しました。ハンセン病という病名は知っていても今まで学習していませんでした。40年以上前に見た映画がずっと記憶に残っていました。ハンセン病は感染力が弱く治療薬もあったのに、つい最近まで隔離政策は続き、その後も偏見や差別は続いていました。裁判での勝利、原告代表と当時の総理大臣が面談したことなどニュースで流れたと思うのにその時はあまり気に留めてなかったと、今思います。本当に今回学習ができてよかったと思います。多くの人々に知らせることが必要だと感じました。（京都・浦田）

★ハンセン病について漠然としか知らず、怖い病気だと誤解されて、隔離されたことはわかっているけど、実際に野村さんの当時の話や家族の話、特に島で生まれた赤ちゃんを産湯につけずに口をふさいで殺してしまう話には、とても衝撃を受けました。今でも差別に苦しむ人がいることは、今のコロナや戦争の語り部さんの話し、ジェンダーのことなどいろいろなことにつながるけれど、差別が亡くならない世の中のままだにしないために、少しでも色んな機会でも学習し、色んな立場で考えられるように自分自身学ぼうと思います。(京都・森谷)



★自分では絶対行く機会がないところに行く貴重な体験ができたと思います。コロナ患者への差別や津久井やまゆり事件などの障がい者差別、ずっとなくならない、自分でも加担してしまうかもしれない差別にどうやったらしっかり向き合っていけるだろうかとか、いろいろ考えさせられました。(長野・市川)



★ハンセン病について知ることができ、実際に経験したお話が聞け、子どものころに島へ来たとき、母親との別れはとてつらかったらうなと感じました。学習したことを組合のみなさんや家族、友達にも伝えていきたいです。(京都・藤井)

★病名は聞いたことはあったが、直接野村さんよりお話を聞いて、なんてひどすぎる対応をされてきたのが分かりました。人間というものは、とにかくわからないものがあると隔離したり、差別をしたり、なかった事のようにするものだと、簡単に比較はできないがコロナのようなもので、もっとそれ以上の人権を奪われたのだと分かりました。(長野・倉島)



★当事者の方のお話を伺って、戦後なのに本当に監禁するかのよう収容し、帰れなくなるような対応が行われ、公衆衛生の名のもとに人権を侵害どころか、人生を無理やり変えさせられた方たちがいたことを実感として知った。療養施設と言いつつ、劣悪な住環境、軽症の方が重症の方を看護・介護し、施設内の環境整備も自分たちで担わされ、しかもそれが損害賠償請求で勝訴するまで無償でさせられていたという事実。この隔離政策が間違いだったことを反省しているはずなのに、新型コロナの際に感染者の人権に十分な配慮がされていたとはいえないことがあって、私たちは歴史から何を学んだのだろうと胸がかきむしられた。(徳島・藤原)



★以前みた映画「あん」、樹木希林さん出演のハンセン病回復者との出会い別れの物語を思い出して、今回参加させてもらいました。これまで大島が国の療養所だったことも知りませんでした。野村さんの話をお聞きし、胸が締め付けられました。大島はとてきれいな景色や建物、しかし幼くして連れて来られ、人としての扱いをしてもらえず、なぜ生まれてきたんだろうと思いつつ、亡くなっても故郷に帰れない。納骨堂には多くの方が葬られているととても悲しい現実があり、ハンセン病問題がおこした被害は本人だけでなく家族や親類にも及んでいること。自分たちにできることは何か色々と考えさせられました。とても貴重な体験ができたことに感謝したいです。(徳島・山田)

★野村さんの講演で、お母様がバスを走って追いかけて来られたエピソードは胸が詰まる思いでした。きっと語りつくせないお話がもっとたくさんあったと思います。私たちがまわりの人たちに伝えていかなければと思います。(福岡・阿部)

★ハンセン病というのは聞いたことありましたが、じゃあどんな病気？と言われると詳しいことは知りませんでした。昔はハンセン病になったら強制的に島に管理されてしまい、家族と会うこともできない島の外に出ることも許されない、国はなんて残酷なことをするんだろうと思いました。もし自分がその立場になったらと思うと、辛くて耐えられるかわかりません。国がしてきた残酷な現実をきちんと次の世代に伝えて同じことを繰り返さない社会にしていかなければいけないと思いました。(京都・杉山)

★何の知識もなくお話を聞き、びっくりしました。島内を見学して、病気を抱えながらの手入れにはこれもまたびっくりでした。初めての経験で大変勉強になりました。(京都・坂田)



食べて飲んでしゃべって踊って 元気いっぱいもらったよ～！

★宿も良くて、料理も温泉もよく、楽しく交流ができてよかったです。各地からの参加者の発言はとてもよかったです。最高齢の広木さんから京都の一番若い組合員まで、やはりコロナ禍からこの交流は待たれていたと思いました。集まって交流できたことの何倍もの効果で元気になれたと思います。最後の「炭坑節」良かった～！（長野・磯野）

★琴参閣ことひら温泉、素敵なところでした。事務員一人で普段女性事務員のメンバーと会えないので、コミュニケーションたくさんとれ、情報交換もできました。久々に修学旅行しているような楽しい時間でよかったです。次の企画を楽しみに、ぜひ参加したいです。頑張れる活力をもらいました。（京都・岸田）



★女性部大会などで何度も夕食交流会を経験したが、今回ほど有意義なものはないと感じました。（各都府県からの報告です。）すごい連携プレーで台風一過の中、高松までこれたことを聞いて、「女性」の力強さを感じました。（大阪・粕川）

★乾杯の時にビールなしはちょっとさみしかったよ。女性の心意気がしっかり伝わり頼もしい建交労女性部。もっともっと強くなっていく気がした。本当に楽しい力強いひとときでしたね。初めて参加した島本さんはびっくりしていました。（広島・廣木）



こんぴらさんを満喫！

★絶対にこんぴらさんの奥社まで登ってそこでしか買えないお守りを買いたいので、今後この体験はできないであろうという目標に向かって一步一步のぼりました。体力に限界まで来ていましたが、何とか奥社まで登れ、達成感を味わい、感動しました。私の一生のお守りにします。

(京都・岸田)

★1368段を登って金毘羅宮の奥社まで行きました。話によるとすごい時間がかかりしんどいと聞いていましたが、思っていたよりも到着するまでにあまり時間がかからなかったです。階段をのぼりながらとてもヒーリングできました。

(京都・織戸)

★はじめは本堂までの予定でしたが、奥社の御朱印が欲しくて大門までタクシーで、そのあとは頑張って上まで歩きました。盲点だったのが、水分補給。用意したお茶はスッカラカン。下りの階段は思った以上にきつく、自販機を探すもなく、本堂で時間が迫る中、巫女さんへ聞きに行き、答えが「自販機はなく…」に崩れるような思いをし、「でも奥の冷蔵庫から1本200円で売ることができます」と、生き返る思いでした。景色最高！

(京都・森谷)



★金毘羅宮のうわさは聞いていたけど階段がすごくきつく辛かったです。本宮からの景色がとてもきれいだったのでがんばって上がったかがありました。(京都・佐々木)

★普段忙しくて旅行できない者にとって、ありがたい企画でした。若い女性組合員の参加が増えるともっと良いと思います。(東京・廣川)



★うどん打ちできるかなとドキドキでしたが、親切丁寧に教えてくださったのと、チームでうどん打ちをして嵐やマツケンサンバの音楽にあわせてうどん踏みをしたのが面白かったです。

(福岡・多田)



★前日からの悪天候の影響で電車が運休になり、予定の時間には到底難しいところ、女性部事務局のOKのもと、磯野さんの判断と機転の良さと市川さんのすばやい飛行機チケットが予約できて、ありとあらゆる交通機関を利用してこの交流会に出席できたことを感謝しています。(長野・倉島)

★初めての体験。私は左手の力があまりなく、右側しか伸びないので苦労しましたが、出来上がりは上々。掛け声やテープの局にあわせて、タンバリンをたたきながらのうどんを踏む作業は、皆で楽しくにぎやかな時間でした。またマイうどんを持ち帰り、家族に試食してもらい、土産話に花が咲きました。(兵庫・細見) **おいしいソフト→**



★台風の影響で新幹線が午前中動かず連絡を取り合っているとき、「飛行機はどうか」との連絡が入り、早速チケットをネットで村上さんにとっただき、急ぎよ飛行機で高松空港へ。1人が大島に参加、他の東京メンバーは船着き場で大島から帰ってくる参加者を出迎えました。高松港の船着き場にキッチンカーがあり、さぬきビール、イチゴアイス、アスパラの豚巻きを食べとてもおいしかった、それも思い出です。(東京・江部)